

平成16年度 農業農村整備事業の効率的実施に係る検討会 「基幹的な農業水利施設の管理体制支援」報告書概要

・ 検討の目的

- ・ 施設を適正に管理し、多面的機能の発揮を促す観点から、国営造成施設等の基幹的な農業水利施設を管理する土地改良区の本管理体制を整備するため、平成12年度から国営造成施設管理体制整備促進事業（管理体制整備型）を実施。
- ・ 本事業のこれまでの5年間の成果について取りまとめて評価を行うとともに、本事業による今後の支援のあり方について検討を実施。

・ 事業の成果と課題

1. 農業水利施設の管理の現状

- ・ 農業水利施設の管理は、土地改良区、水利組合等の農家組織、集落、個々の農家と重層的に行われており、頭首工等の基幹施設については、土地改良区が中心となって配水・分水操作や点検整備等の管理を実施。
- ・ 国は、国営事業で造成された施設のうち特に公共性の高い一定規模以上の施設について、国の直轄管理や地方公共団体による管理に対する助成のほか、施設の整備補修に対する支援を実施。
- ・ 土地改良区は、国による支援以外にも、市町村等からの独自の財源による支援を受けているほか、排水の受け入れなど施設の他目的使用料として組合員以外からも便益に応じた費用負担を徴収するなどの取組みにも努めている。
- ・ 農業水利施設の機能は、土地改良区による施設の適正な維持管理を通じて発揮されているものであるが、都市化・混住化の進展、組合員の減少や高齢化によりその管理体制が揺らぎつつある。このため、農業水利施設の発揮する多面的機能に着目して、土地改良区が適正に管理できるような体制作りを支援するのが国営造成施設管理体制整備促進事業（管理体制整備型）。

2. 国営造成施設管理体制整備促進事業（管理体制整備型）の成果

- ・ 本事業は、全国で267地区、41道県で実施されており、その受益面積は、1地区平均約4千8百ha、全国で約128万ha（全国農地の約27%）に及ぶ。
- ・ 施設の管理主体である土地改良区は、操作方法の変更等管理水準の高度化に取り組むとともに、その管理水準を実現するための管理体制強化に努めることにより、洪水防止機能、地域用水機能などの多くの多面的機能の発揮を促進するようになるなど、相当の効果を発現。

3. 事業の課題

- ・ 土地改良区による施設管理を地域で支えてきた施設管理人や水管理組合は、高齢化の進展等の課題を抱えており、今後、その安定的な取り組みが困難になる恐れ。
- ・ 本事業の実施により、農業水利施設の有する多面的機能に対する理解が深まり、非農家の管理参画が進みつつあるが、その参画の仕組みをより安定的なものとしていくことが必要。

．今後の支援の方向

1．非農家の管理参画の枠組み作り

- ・本事業を実施している267地区は、食料供給の中核的な役割を果たしている大規模かつ優良な農業地域であり、今後とも、安定的な食料供給のための生産を確保するためには、これまでに形成された農業水利施設の貴重なストックを適切に保全していくことが必要。
- ・非農家が管理に参加しやすい基盤を準備するとともに、環境維持、多面的機能という概念に価値を置き、土地改良区の活動がこれら多面的機能の発揮にも重要な役割を果たしているということをPRしながら、多様な主体が一体となり、地域で施設を管理する仕組みを構築することが必要。
- ・農業水利施設の有する多面的機能に対する理解を深め、非農家の管理参画を促す活動を行っているが、それを実効あるものとするためには、土地改良区、集落組織等のキャパシティ・ビルディング（能力の構築）が極めて重要。
- ・今後、非農家の管理参画をさらに促進させるためには、管理参画を促すイベントを引き続き実施しつつも、非農家の管理参画が安定的・継続的なものとなるよう、イベント的な管理参画を日常的な管理参画へ発展させていく枠組み作りが不可欠。

2．組織化、協定締結の促進

- ・今後、非農家の管理参画を日常的、安定的かつ継続的なものとするため、非農家が管理に参画するための組織化や自治会等と管理の役割分担を明確にした協定締結を促進することは、極めて有効な手段。
- ・非農家の管理参加の状況や地域住民の多面的機能の発揮に対する要請等地域の情勢に応じて、組織化や協定締結が実現可能な範囲で、換言すれば地域住民が多面的機能の享受を実感できる範囲で、段階的に取り組み、その活動を地区全体に広げていく方法が現実的。

3．効率的な事業の実施

- ・今後、PPPによる活動がコミュニティ形成の核となることが期待されている中で、本事業の継続によりPPPの取組みをさらに促進させることは、効率的な管理体制を構築する上で重要。
- ・それぞれの地区において地域全体で施設を管理する枠組みを構築するための組織化や協定締結の目標を設定し、設定された目標がどの程度達成されているか進捗状況を把握し評価する仕組みを検討するなど、効率的な事業の実施に努めることが必要。
- ・農業・農村の有する多面的機能については、流域の上流、下流といった水の循環や地域の連携といった視点が重要であるとともに、自然環境や農村に存在する守らなければならない資源に着目して、都市と農村の共生といった大きな視点で捉えることも必要。
- ・基幹的な農業水利施設に対する本事業を推進するにあたって、地域の農地・農業用水等の資源に対する施策と連携して実施することによって、非農家の管理参画をはじめとして、より効率的な事業運営や効果の発現が期待できる。